

り出る、よつてよし野こまともいふ、子のとし暑氣をきらふゆへ、夜る晝すゞしき様にかふべし、ほめきつよき時は目をわづらふ、

島こま あがい 右同断

大きこま鳥に少し小ぶり、總身うす赤鼠色にて、むねにうろこのふあり、さへづりこまにてほそし、此とりきんごくにすまず、おん國よりきたる、よつて子がいなし、

野こま あがい 生五分、あをみ入、粉壹匁、かんにきにはくるみ入よし、

大きこまに大ぶり、毛色うぐひすににたり、咽にくれなるの毛あり、其いろ鳥類になき見事なる赤色なり、秋のすへ冬出る、春またまれに出る、寒氣にいたみ飼にくき類なり、さへづりすこしあり、こゑほそし、

とうこま あがい 生七分、あをみ入、粉壹匁、

大きこまに小ぶり、毛色こまどりにくろみあり、さへづりほそし、此鳥めづらしきるいなり、から鳥にはあらず、和鳥ながらまれに出る、

大こま あがい 生四分、あをみ入、粉壹匁、

大きこまどりより大なり、毛色こまにかはる事なし、さへづりこまにをなじ、まれにあり、めづらしき類なり、

〔飼鳥必用〕吉野駒鳥

此鳥は脊高く鳥も大形にて音さへあり、足の色但し二通りあり、白足あり、黒足の方は至て丈夫也、白足は足に病出る也、

秩父駒鳥

但し何れ高下なし、右鳥の出處もち、ぶ大瀧と云處にて出る、小瀬戸と云處よりも出る、尤につ